議会史ちょっとのぞいてみよう

（12）福岡市総合計画の策定

昭和36年６月、福岡市は全国に先駆けて、マスタープランとなる福岡市総合計画（基本計画）を策定しました。敗戦後、焼け野原から立ち上がり、苦難の時代を克服し、復興を果たした福岡市が、市民生活の安定と西日本の首都を目指して、新しく大福岡市建設を推進するための指標としてこの計画を樹立したのです。

総合計画の策定に当たっては、昭和35年５月に市長の諮問機関である福岡市総合計画審議会が設置されました。助役を会長として、関係行政機関の職員、関係団体の役職員、学識経験者、市議会議員等総勢49人が委員として審議に加わりました。

昭和36年６月、総合計画審議会によって「諮問された総合計画に関しては（中略）おおむね妥当なもの」との答申がなされます。これにより西日本の拠点都市にふさわしい福岡市の未来像として、長期総合計画が樹立されました。

その後も昭和41年７月、46年11月と改定を重ねながら、掲げられた目標に向かって都市づくりが進められ、47年４月の指定都市発足につながっていきました。

＜福岡市議会史第５巻「昭和編（三）」第一章　市総合計画の策定　から＞